

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (四国)	◎	その他専門店〔酒〕（経営者）	・暖かくなるとビールなどの飲物が売れるためこれから良くなると予想される。またお中元も後押しするだろう。
	○	商店街（常務理事）	・人流の増えたゴールデンウィーク明けに新型コロナウイルス感染症の感染拡大の懸念はあるものの、世界的な金融危機等が起こらなければ、国内の経済、消費は2019年以前の活気を取り戻し、超えていくと期待している。
	○	商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症発生前のいろいろなイベントが平常どおり行われるようになり、これから先の夏場のイベントや祭り等も予定されている。5月から新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症に移行することも含めて、コロナ禍に右往左往する時期は過ぎ、段々と元に戻ってくると予想される。
	○	一般小売店〔文具店〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が沈静化しつつあるとみられ、また連休が始まったことにより商店街への来街者が顕著に増えてきている。これによりしばらくは好転が続くことが期待できる。
	○	スーパー（企画担当）	・単価は引き続き上昇するため売上は前年比で増加するだろう。来客数の伸びが鈍化すると売上の伸びに悪影響が出てくると予想される。
	○	スーパー（企画担当）	・新型コロナウイルス感染症の2類相当から5類への移行による人流の活発化が期待される。
	○	スーパー（人事）	・新型コロナウイルス感染症の5類移行により、人の動きが活発になるため、帰省や旅行で県外からの来客が多くなると考えられる。
	○	コンビニ（店長）	・徐々に外出が増加し人流の総数が増えると、結果として来客数が増えていくと考えられる。
	○	コンビニ（総務）	・コロナ禍から3年経過し5月からの分類引下げにより、人流が活発になりウィズコロナが本格化すると予想される。
	○	衣料品専門店（営業責任者）	・新型コロナウイルス感染症の5類への変更で、より外出しやすくなれば、まだ本格的に動いていない高齢者層が動くようになるのではないかと期待している。
	○	乗用車販売店（役員）	・自動車の生産停止が多発した前年と比較すると大幅に改善すると予想される。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（総務部担当部長）	・インバウンドを中心に旅行需要の回復が期待され、それに伴い来館数、買上等も伸長すると考えている。
	○	一般レストラン（経営者）	・これからは客足が戻り、売上が回復するとみられる。
	○	その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・5月8日より新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症に引き下げられることにより、外食への動きが活発化するとみられる。
	○	通信会社（社員）	・ゴールデンウィークもあり、外で金を使う人が増えるだろう。
	○	通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染対策の緩和に加え、来店促進施策等により来客数の増加が期待できる。
	○	美容室（経営者）	・ようやく普通の生活に戻ってきたが、物価高で消費は抑え気味だと考えられる。
	□	商店街（代表者）	・中小企業の賃上げが、電気代の上昇や物価の上昇等により難しい状況であり、個人消費が伸び悩むのではないかと予想される。また求人に対する募集人員の確保が思うようにはいかず営業時間の拡大等が難しい状況が続いている。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	・このまま新型コロナウイルス感染症の影響を受けなければ、客の購買意欲が上がってきているため、良い状態を保つことができると考えられる。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	・光熱費の上昇や物価高の影響もあり、消費者の節約、儉約志向は続くだろう。
□	スーパー（店長）	・新型コロナウイルス感染症の収束により単籠り消費需要が縮小する反面、行楽需要や観光需要が拡大するだろう。	
□	スーパー（店長）	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症へ移行し外食化が進むが、スーパーマーケットでも試食やイトインの再開等で売上の伸長が期待できる。	
□	コンビニ（店長）	・明らかにコロナ禍と比べ売れる商品が変わってきているため、そこに注視していく必要があるとみられる。今後の物価上昇は賃金と国内の景気次第かと考えられる。	

□	コンビニ（商品担当）	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症に移行して、人流が増え、来客数の増加が想定できるが、商品単価の上昇や電気代の高騰がカバーできたとしても景気が良くなるには、基本給のベースアップなどがないと難しいと考えられる。
□	衣料品専門店（経営者）	・全体的に来客数が減っている。その理由は県外の方に客が流出しているからではないかと感じる。大手の同業者が前年度に進出してきたことも要因かもしれない。業況は横ばいという感じである。
□	家電量販店（店員）	・家電の価格が上昇している影響もあり、買い控えの様子がみられる。
□	家電量販店（副店長）	・ゴールデンウィークに向けて外出機会が増えて家電販売への影響が懸念される。その後については賃金アップにより購入意欲の高まりを期待しているが、来客数が伸びないことには期待できない。
□	乗用車販売店（従業員）	・当面はメーカーの生産量は増加するが、決算期も終わり受注は落ち着いていくと予想される。また物価上昇が続いており、購入意欲も上がりづらいと考えられる。
□	都市型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大傾向が気になるが、5類への移行に伴い、今後も動向は変わらないと予測される。
□	美容室（経営者）	・ゴールデンウィークが終わると、大分景気が落ち着くと考えられる。
▲	商店街（代表者）	・新たに選ばれた首長の政策は、これまでの方向性と大きく違ったものになりそうであり、また、当面の街づくりの方向性の決定や具体化の遅れが継続して混乱が起こるだろう。
▲	百貨店（販売促進）	・新型コロナウイルス感染症の第9波が予想される。
▲	スーパー（財務担当）	・実質所得の減少で買回りが進み、買上点数の更なる減少が予想される。
▲	スーパー（統括担当）	・物価高などの暮らしの不安が小さくなることはなく、消費意欲は冷えてくるのではないかと考えられる。
▲	衣料品専門店（経営者）	・物の原価などが上がりすぎだと思う。何をするにも高すぎるため、このままでは景気は良くならないのではないかと考えられる。
▲	乗用車販売業（営業担当）	・販売価格・ガソリン代・電気代などの価格高騰により買い控えが予想される。
▲	乗用車販売店（従業員）	・燃料代も徐々に上昇しており、生活関連の物価上昇は今後も続くと予想されるため、高額商品の購入には慎重になっている。
▲	観光型旅館（経営者）	・全国旅行支援の効果がなくなり、地方都市でインバウンド需要の効果が出るまでには、まだ時間が掛かる見込みである。
▲	タクシー運転手	・夏が来るとお遍路の仕事はほぼなくなり、街で営業するわけだが、今までよりは売上は減少し、やや悪くなると予想される。
▲	タクシー運転手	・4月に入るとインバウンドの影響で外国船の入港があったが、タクシー利用は少なく、チャーターのバス移動が多い。また、夜の街、昼の乗客数も流し営業ができる状態ではない。夜は特に流しても客がいないため、止まって客を待つが、決まった客が乗るくらいで、現状で考えると業況は変わらない。
▲	通信会社（営業部長）	・4月に入ってから来客数が減少している。新たにものを買替える動きが慎重になっているのではないかと。
▲	競輪競馬（マネージャー）	・給料のベースアップ、物価が安定するまでには最低半年は要すると予想される。
▲	設計事務所（所長）	・建築費の高騰に加え、土地も商業地が値上がり転じて動きが鈍くなっており、事業をちゅうちょする人が増えてきたように思う。
×	衣料品専門店（経営者）	・物価高により購買意欲が低下している。

企業 動向 関連 (四国)	◎	繊維工業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が収束に向かい、これまでの暗い市況が上向きに転じている。現在、中国からの旅行者が回復していないようだが、今後、増えてくれば、更に活気が湧くとみられる。観光地以外の全国の小売店においても追加発注が旺盛になっており、積極的な消費が続くと感じている。小売店の中には、コロナ禍で一部店舗を閉鎖したところもあったが、ここに来て新規店舗の開設を検討しているという情報もある。
	◎	金融業（副支店長）	・現状の取引先の様子から短期的には景気は回復基調であると考えられるが、新型コロナウイルス感染症の拡大や原材料価格の更なる値上がり、新型コロナウイルス感染症関連融資の返済開始等の影響により、夏場以降、景気が後退する可能性があると考えられる。
	○	食料品製造業（商品統括）	・価格引上げによる企業の増益と給料アップの実施による後押しに加え、インバウンドによる業務用食料品の伸びが急激に回復傾向となっている。
	○	パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・5月8日以降更に外国人観光客の増加が見込まれ、フェイスマスクの売上は増えると思う。また、外出する人が増え除菌ウェットクリーナーの売上も増える可能性がある。
	○	鉄鋼業（総務部長）	・受注は安定しており、仕入価格の上昇が落ち着き、販売価格の交渉が進捗すれば、収益環境は改善する見込みである。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	・現在、竹から作る特殊飼料が、段々と購買につながっていくようになったことで、経済的、また環境的、社会的に見ても、景気は段々と良くなっていくと予想される。
	○	電気機械器具製造業（経理）	・3月に緩和された新型コロナウイルス感染症対策が社会全体に浸透している影響により、外国人観光客や国内外のレジャーや出張が明らかに増加傾向にあり、新型コロナウイルス感染症発生前と変わらないほど昼夜の街ににぎわいが出てきていることから、インフレによる物価高や円安基調は継続しているものの、回復の兆しがみられる。
	○	通信業（総務担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数も落ち着いていることから、社外イベントやボランティア活動が従来どおり実施できる傾向が続くと考えられる。
	□	農林水産業（職員）	・観光旅行等は増えており、業務用の需要は回復傾向がみられるが、先行きは新型コロナウイルスの感染状況によるところが大きい。一方、様々な値上げの反動で生鮮野菜の購買力低下につながるなど、一般消費は低調である。
	□	食料品製造業（経営者）	・5月の価格改定（値上げ）に伴い受注量は減少するが、売上金額は維持できると予想される。
	□	化学工業（所長）	・中国経済及び原油需要の回復が遅延している一方で、OPECプラスの追加減産で原油は下落傾向に歯止めが掛かり、ナフサの価格も第1四半期以上には下がらないと予測されるため、当面綱引き状態が続くとみられる。
	□	建設業（経営者）	・今年度の公共事業の発注量によるところが大きいですが、公共事業関係費、四国地方への分担額等が例年並みであったことに、安どするとともに、景況感もこのまま変わらないと予想する。民間事業については、戸建て住宅がまだ動きが鈍い状況に変わりないだろう。
	□	輸送業（経営者）	・マスク着用に対する考え方の見直しが行われ、5月からは感染症法上の分類が2類相当とされる新型コロナウイルス感染症が、季節性インフルエンザと同等の5類感染症に変更されることを受け、濃厚接触者の隔離の原則撤廃等による大幅な行動制限の緩和となり、人流の活発化や消費の拡大により景気回復が期待できるが、運送における取扱物量の増加等の地域経済を押し上げるような動向は見当たらず、依然として都市圏と地方圏の地域格差を強く感じる。
	□	輸送業（経営者）	・早急に人手不足の対策をお願いしたいが難しそうである。また、監督官庁への提出書類が多いと感じている。
□	通信業（企画・売上管理）	・新型コロナウイルス感染症による制限が緩和されつつあるため、広告・宣伝が活性化すると期待したいが、今のところその兆しがみえない。	
□	広告代理店（経営者）	・エネルギー価格高騰や新型コロナウイルス感染症の影響で、販促費や広告費の見直しが多くの客先であった。したがって、観光関連の客先以外は、新型コロナウイルス感染症発生前の販促費や広告費の予算が戻らず、広告費削減傾向を続ける客先が多い見込みである。	

	▲	木材木製品製造業（営業部長）	・ハウスメーカーの契約状況が回復していない。今後も厳しい状況が続く見込みである。
	▲	建設業（経営者）	・20年ぶりに県知事が交代して先行きが不透明である。
	×	—	—
	◎	—	—
雇用 関連 (四国)	○	人材派遣会社（役員）	・新型コロナウイルス感染症に左右されない日常に戻っていくか、しっかり消費者を受入れ、満足なサービスを提供できる職員が不足している話をよく聞く。特に宿泊施設スタッフ、公共交通機関の運転手、警備員など、自粛期間中に雇用縮小していた業界が人手不足の課題を抱えている。夏休みに向けて消費意欲も高まり、景気自体は良くなっていくと予想される。
	○	職業安定所（求人開発）	・原材料・燃料の値上がりが続き、価格転嫁しても追いつかず、各社の収益を圧迫しているが、様々な分野での人手不足は続いており、今後も雇用が増えると予測される。
	○	学校〔大学〕（就職担当）	・インバウンド需要を始めとして人の動きがやや活発になっている。
	□	求人情報誌（営業）	・観光・飲食を中心としたサービス業界では歓送迎会の復活を経て、来店客は一定程度回復しており、連休等の予約で売上の見込みを立てているが、人材不足と人件費、材料・光熱費の高騰などの影響を受け、景気としては横ばいが見込まれる。
	□	求人情報誌製作会社（経営者）	・学生アルバイトの求人数は増えてくるが、異動時期が落ち着くと正社員の募集が減少すると予想される。
	□	民間職業紹介機関（所長）	・当面はこのままの流れが続くと予想される。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	・正社員、直接雇用の求人の給与がアップしており、派遣との格差がなくなりつつある。派遣に登録し働くメリット（時給が高いなど）が薄れるため派遣業の景気が懸念される。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・民間企業の所得が増えないと消費が伸びない。地方ではなおさら当てはまる。
	×	—	—